

世評・時評

毎年八月になると、世間は半世紀以上経過した今でも原爆や終戦の話題となるが、私も練習船日本丸を迎えた八月十五日の酷暑のことや、太平洋戦争にからむ色々なこと、それに伴う自分の生き方や哲学を思い巡らす。

当時の我々は、幼少の頃より軍国主義、封建主義の思想に洗脳され国の為、天皇の為に命を捧げることを考え、今日の自分の存在を認識しても、一年後の自分は居な

いと考えることが普通で、生命や人間の尊厳など、現在最も大きく扱われている言葉などは、罪悪感や反体制の最たるものであった。

まして恋だの愛などという言葉は軟弱や女々しく不潔にさえ扱われ、恋から逃げるのが美学的な感覚であった。

靖国神社と云う存在はエンターティナーに与ったのブロードウェイ的な存在で若者は憧れ、何年後かに参拝することさえ批判されるような事態になるうとは誰が想像したであろう。



右上…聖路加国際病院創始者トイスラー記念館
 左上…立教学院発祥記念碑
 左…築地本願寺

写真・文 七海邦夫

東京江戸散歩 その拾参 一佃・月島・築地③

播州(兵庫)明石の漁師が移住して来たのでその名がついた明石町も古い埋立地である。明石町となる前は鉄砲洲と呼ばれ、隅田川べりの明石町河岸公園に小松石の石碑がある。

又明石小学校の前には当時のコリント風のガス灯柱が残されている。各国の公使館や領事館と共にキリスト教回が進出し、ミッション系の学校が作られた。このあたりから、立教、明治学院、青山学院、女子学院、雙葉学園などが生まれたの

も土地柄と言えらるる。聖路加国際病院の南側のあかつき公園には、日本西洋医学を教授した幕府の外事顧問を務めたシーボルトの像、公園のはずれの交差点には蘭学事始の碑と慶応義塾発祥の地の碑が並んでいる。

安政五年(1858)福沢諭吉が豊後(大分)中津藩の中屋敷で洋学塾を開いたのが慶応義塾のはじまり。

又その前に藩医前野良沢が杉田玄白、中山浮庵らと苦心の末、日本で最初に西洋の解剖書を翻訳して「解体新書」の翻訳を著しており、共にここがゆかりの地となったものである。

築地川公園に面した聖路加看護大学の南角に浅野内匠頭邸跡の碑と芥川龍之介生誕の地の説明板がある。元禄十四年(一七〇一)三月浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷に及んだ松の廊下の事件によって家名断絶となるまで、赤穂藩浅野家の上屋敷があったところである。

又明治時代には、芥川龍之介の父親新原敏三が耕牧舎という乳牛牧場

を経営していた、龍之介はここで生まれた。築地本願寺(西本願寺築地別院)は、元和年間(一六二〇頃)西本願寺十二世准如が浅草浜町に創建、明暦の大火後現地に移され、浅草本願寺別院と共に両院と呼ばれ、上野の寛永寺や芝の増上寺と並ぶ江戸の大寺とされた。

今の伽藍は古代インドの仏教建築に近代的なデザインを施したもの

毒舌・独言

「死んでしまった人間は大したものだ。何故、ああはつきりとしっかりとして来るんだらう。まさに人間の形をしていて、生きていて人間とは、人間になりつつある一種の動物かな。」

小林秀雄が、川端康成に言った言葉である。日常の生活に忙しく追われている我々は、死して初めて「人間」になる。途中の姿は「一種の動物」であるとの表現に、小林秀雄の確たる「死生観」を感じる。

「死」に言及したものと云ふは、有名な「武士道」と云ふは、死ぬ事と見付けたら」という「業隠」の一説がある。「常住死身に成る」「死習う」など普段の生活における「死」の心構えが説かれ

を、関東大震災後に再建された鉄筋造り(伊東忠太設計)である。境内墓地は杉並の和田堀廟所に大部分移されたが、幕府の侍医でシーボルト事件に連座した眼科医土生玄石、赤穂浪士間新六、光琳の画風に洒落さを加えて、自らの画風を作った江戸後期の画家酒井抱一、佃島門徒の祖緑右衛門らの墓がある。

で、開東大震災後に再建された鉄筋造り(伊東忠太設計)である。境内墓地は杉並の和田堀廟所に大部分移されたが、幕府の侍医でシーボルト事件に連座した眼科医土生玄石、赤穂浪士間新六、光琳の画風に洒落さを加えて、自らの画風を作った江戸後期の画家酒井抱一、佃島門徒の祖緑右衛門らの墓がある。

(続く)

◆編集委員会より

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しております。担当・飯島までお申し出ください。

利用者さんの紹介コーナー

大友 あさよ

こどもにきては体もよくなり、これからも続けたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。



片岡 龍雄

昨年の十月からお世話になり十月月になりました。現在歩行器を使っていますが自力歩行に向けてがんばります。



小貞 あや

先日は誕生日のお祝いありがとうございました。これからもリハビリに励んで元気に生活していきたいと思ひます。



横田 達

毎週適度に運動しているのですが、体が柔らかくなってきました。毎週楽しみにしています。



石井 みと子

薬に通所させて頂き感謝しています。よろしくお願ひ致します。



菊池 麗

リハビリを楽しんでいます。体力をつけるようがんばります。



大内田 日出人

薬に通所して二カ月。思ったより楽しく自分と同じような人の集まりなので負けずに頑張りたい。



山本 富三

夢のまた夢に会います。人々と今日一日の楽しさをかみしめ。



随筆

フルテルプラマの 随筆

横川喜多子

夫の在外勤務で赴任したアルゼンチンで、或る年、数日の貴重な休暇を利用して大西洋での海釣り計画、ブエノスアイレスから飛行機でマルデルプラタ迄行き、船に乗る事になりました。

随想

私のお家 泉 貞子

終戦後十一年間に及ぶシベリア・中国の抑留から解放されて夫が舞鶴港に帰ってきたのは、昭和三十一年八月のことでした。その時夫は四十三歳、私は四十歳は昭和三十二年の秋、夫の大学卒業と同時に結婚して二十一年経っておりました。思えば昭和十年に生活出来たのは五年間くらいでした。

でも、もう一生ない経験だからと、受け容れて頂きました。矢張りそのせいか、当日は少々海が荒れていましたが、他の船も出港していたので決行いたしました。

八月二十五日「ソロモン海戦必殺の夜襲」という夫の記事は新聞の一面を埋め、NHKの正午のニュースでも放送されました。

性方が、甲板に座りこんで竿を垂れ、リールを回して熱中。成果も上がり流石だと思つたものです。

帰国後は海軍航空兵募集の為、各大学へ講演に廻らされたので、この二年間が新聞記者として一番充実した時期だったのだと思ひます。

よ！。それを聞いて私は胸が詰まってお礼の言葉も出ませんでした。



丸山白子と結婚する前

昭和三十一年の春、中国から李徳全女史が生存者名簿を携えて来日されました。その発表を夜更けのラジオで耳を済ませて聞きました。富山県の最後にやつと夫の名前を聞いた時、私は長い間の心配が溶け、腰が抜けたようにヘナヘナとその場に蹲ってしまいました。

俳句「愛」は休戦します。

バに会いました。父の記憶の無い苦の娘と三男が船を下りて来る父親を私より先に見つけて抱きつき、次男と私が駆け寄る前に夫は二人を抱きしめ涙を流しておりました。

翌日、富山県の郷里の駅に着いた時、プラットホームに出迎えた夫の母が感極まり、「おうおう」と人目もはばからず泣したのを、今も忘れぬ事が出来ません。お母様もどんなにお辛かったことでしょうか。本当に長かったですね。」と、私も同じ思いで、義母と一緒に泣きました。

夫と同じ世代の男性は、陸軍の一部の暴走とそれを抑え切れなかった政治家のために、勝目のない戦争に狩り出されました。お国のためにという名目で多くの尊い命が失われました。

敗戦後、あの廃墟の中で黙々と働き続け、今日の日本の繁栄を築き上げたのも、夫と同じ明治・大正生まれの男性達でした。本当に強い男らしい男が多かった、と心から尊敬します。

今の世代の若い方々には、目の前の快楽主義に流されず、日本の将来について真面目に考え、先ず足許の家庭生活、子供の教育から努力して頂きたくと希って止みません。